

# 庁 議 等 付 議 事 案 調 書

開催日 令和3年4月19日

局部名 教育委員会学校教育部

- I 会議名 庁 議 政策会議
- II 付議事案名 千葉市立稲毛国際中等教育学校移行基本計画について
- 
- III 付議目的 方針決定 協議 報告 その他 ( )

## 1 決定事項 (協議事項 報告事項)

開校に向けた準備を進めるに当たり、千葉市立稲毛国際中等教育学校の基本的な枠組み等下記事項を定めた「千葉市立稲毛国際中等教育学校移行基本計画」を別紙のとおり決定する。

- (1) 中等教育学校移行の基本的な枠組み
- (2) 中等教育学校が目指す教育
- (3) 入学者選抜の在り方
- (4) 大規模改修工事

## 2 庁議に付議する理由・背景

令和2年4月21日の政策会議において、千葉市立稲毛高等学校・附属中学校の中等教育学校への移行が方針決定されたが、その際、中等教育学校の教育内容及び施設・設備整備を含めた「中等教育学校移行基本計画（仮称）」を策定し政策会議に付議することとなったため。

## 3 方針決定（協議）後の課題・リスク

中等教育学校の教育内容や入学者選抜、大規模改修工事の実施方法等について、受検希望者及び保護者、在校生及び保護者等の学

校関係者並びに地域住民等に対し説明を行い理解を得る必要があること。

#### 4 関係部局・副市長との調整状況

##### (1) 関係部局との調整状況

総合政策局、都市局建築部（営繕課・建築設備課）、財政局（資産経営課）、建設局道路部（道路建設課）に説明済み。

##### (2) 副市長への報告状況

令和3年4月7日両副市長に説明済み

令和3年4月8日市長に説明済み

#### 5 対外公表の時期・方法

##### (1) 記者発表

実施予定なし

##### (2) 会議資料及び議事録の公表

千葉県情報公開条例第7条第5号（審議・検討・協議事項）にあたるため、教育委員会会議において決定後に公表。

#### 6 添付資料

別紙1 千葉県立稲毛国際中等教育学校の検討状況について・・・・・・・・・・1頁

別紙2 千葉県立稲毛国際中等教育学校移行基本計画

別紙3 学校案内パンフレット

## 千葉市立稲毛国際中等教育学校の検討状況について

### 1 中等教育学校の概要や教育内容について

◎開校：令和4年4月

◎これまでの伝統、附属中学校のメリットと国際教養科の資産を融合し発展させる

#### <6年一貫教育のメリット>

- 6年間を一貫して教育することによる効果的な教育カリキュラム編成（発展学習の実施、課題解決型学習の充実、高校受験に追われずにゆとりを持った学び）
- 6年間を通して生徒の状態を把握した丁寧な指導
- 6年の異学年での交流による人間性の涵養

#### <ハイレベルな国際教育>

- ネイティブスピーカー単独の授業など高度な英語教育（卒業までに英検準1級程度）
- 全ての生徒に海外研修を実施（世界視野のSDGsリサーチプロジェクトなど）

#### (1) 学校像

「地域・世界・未来を切り拓くグローバル・リーダーの育成」

#### (2) 育成する生徒像

「高い志を持ち、幅広い教養を身に付け、未来を切り拓いていく生徒」

#### (3) 特色ある教育活動

- 地域や世界の視点に立ち様々な課題を探究する課題発見・解決型学習  
～様々な体験の機会が生徒の興味・関心を引き出す～
- 中高一貫教育の特性を生かした国際教育  
～世界に触れることができる機会の充実～
- 次世代の社会を支える資質・能力を育成する幅広い教養の育成  
～夢の実現に向けた力の育成～

### 2 大規模改修工事について

#### (1) 大規模改修のポイント

生徒が学びやすく、教職員が働きやすい教室配置にする。

##### ①校舎改修

⇒ 床、壁、天井、外壁、機械・電気等の設備の改修

##### ②バリアフリー化

⇒ 段差の解消、エレベーターの設置

### ③少人数対応教室

⇒ 空教室を半分に仕切るなど単位制実施に伴う選択科目増加や少人数授業を可能とする教室を設置（生徒が自習等に活用できるスペースとしても活用）

### ④アクティブラーニンググループの整備

⇒ 学習の内容に応じて集団での学習やグループ学習が可能となるような広さを変えられる多目的教室を設置

### ⑤前期課程の給食

⇒ 給食棟での合同給食に代え、各教室での給食を実施するための設備を整備

### ⑥グラウンド整備

⇒ 仮設校舎の撤去後のグラウンドについて全体的な整備

### ⑦魅力的な ICT 環境整備

⇒ すべての生徒が 1 人 1 台の端末を持ち、それらを常時同時に使用して質の高い学習を行うことができるよう、大容量のネットワーク環境の整備や教室への電子黒板等の ICT 機器の設置

※ 国の「学校施設環境改善交付金（長寿命化改良事業）」が活用できる見込み（中学校段階について 1 / 3 を補助）

※ この他、各種備品購入などが必要

## （2）改修工事期間中の教育活動等について

工事期間中、在校生徒にできる限り不利益や悪影響がないよう最大限留意する。

- ①中学校段階の生徒 → 旧高洲第二中学校跡地に移動
- ②高等学校段階の生徒 → 現在の敷地に仮設校舎を建設し移動
- ③運動場や体育館 → 近隣の学校やスポーツ施設などで代替

## 3 スケジュール

### （1）説明会

- 2月26日 中等教育学校に関する説明動画の配信  
(視聴制限は設けず、どなたでも視聴可能)
- 5月～ 入学希望者等を対象とした学校説明会  
稲毛高等学校・附属中学校在校生保護者向け説明会  
地域住民向け説明会

### （2）改修工事について

- 令和3年度：耐力度調査
- 令和4年度：改修実施設計  
仮設校舎の建設
- 令和5年度～6年度：校舎等の改修工事  
※令和5年度～6年度の一定期間は、旧高洲二中跡地及び仮設校舎にて教育
- 令和6年度～：新校舎使用開始 ※グラウンドは引き続き工事

稲毛高等学校・附属中学校の大規模改修にかかる概算費用

**計 39.6 億円**

**1. 校舎等改修工事費用**

**23.6 億円**

【工事内容】

- ・床、壁、天井、外壁、機械、電気等の設備の改修
- ・段差の解消（スロープの設置）、自動扉、車椅子利用可能な通路整備
- ・エレベーター2基設置
- ・少人数対応教室設置（既存の教室をパーティションで区切る）
- ・アクティブラーニングルームの設置
- ・給食受け取り場所、保管場所の整備

**2. 仮設校舎建設費用**

	工事内容	仮設校舎 リース期間	想定金額	メリット デメリット
案 1	中学：仮設校舎建設 高校：仮設校舎建設	1年程度	11.8 億円	×グラウンド確保が困難 ×費用が高額
案 2	中学：高洲二中に移動 高校：仮設校舎建設	1年程度	<b>10.2 億円</b>	○在籍生徒への影響が最も少ない
案 3	中学：高洲二中に移動 高校： 【前半】 ・普通教室について、仮設校舎を建設し改修 ・特別教室について、居ながら施工が適切でない教室について仮設校舎を建設 ・特別教室の半分を改修。その間は仮設校舎と工事中の校舎の残りの半分の教室を使用 【後半】 ・普通教室について、引き続き仮設校舎を使用 ・特別教室の残りの半分を改	1年程度	8.5 億円	○費用が最も低額 ×工事の騒音、校舎間の行き来の負担、生徒の安全面の課題が生じる

	修。その間は仮設校舎と 工事中の校舎の改修後の特別 教室を使用			
案 4	中学：高洲二中に移動 高校： 【前半】 ・普通教室について、仮設校 舎を建設し改修（特別教室 は工事中の校舎を使用） 【後半】 ・仮設校舎を特別教室に変更 し、特別教室を改修（普通 教室は工事中の校舎を使 用）	2年半程度	9.1億円	○費用が低額 ×工事の騒音、校舎間の 行き来の負担、生徒の 安全面の課題が生じる

### <考察>

#### 【案1について】

グラウンドの大部分が仮設校舎となる中、生徒全員が授業や部活動で使用するグラウンドのスペースを確保することが困難であり、学校運営上課題が大きい。また費用も高額となることから案1を採用することは適切ではない。

#### 【案2について】

案3や案4と比べると若干費用が高額になるものの、在籍生徒にできる限り不利益や悪影響が出ないようにすることができる。

なお、可能な限り費用を削減することは必要であることから、仮設校舎を設ける教室をできる限り精選するとともに、可能な教室については面積を小さくすることや、備品等を旧高浜第二小学校校舎に移すことなどにより、その規模を可能な限り縮小した。

#### 【案3について】

普通教室は仮設校舎を設置し、特別教室は可能な範囲で居ながら施工を行う案であり、案2と比べ費用を削減することができる。

一方で、居ながら施工となる部分について、工事の音による教育活動への支障、生徒の安全面の課題、仮設校舎と工事中の本校舎の移動の負担などを考えると、将来のために現在の生徒が犠牲になることがあってはならないことから、少々費用がかかったとしても案2を採用する方が望ましいと考える（特に現在の附属中学校生は、既にトイレ改修工事を経験しており、これに加え、大規模改修工事も経験することとなり、大学受験の大事な時期を大規模改修工事の中で過ごす一方、新しい校舎で過ごすことがない状況で卒業することとなるため、居ながら施工をしないことにより、せめてもの環境を確保することが必要だと考える）。

なお、特別教室については仮設校舎を全く設けず、特別教室の工区を2分にし、半分の特別教室で授業等を行う案も検討したが、教室のスペースが足りなくなることや、物理実験室や調理室などの特別な仕様の教室が無くなってしまいう期間が生じることからこの案を採用することは不可能である。

#### 【案4について】

工区を2分にし、居ながら施工を行う案であり、案2と比べ費用を削減することができる。一方で、工事の音による教育活動への支障、生徒の安全面の課題、仮設校舎と工事中の本校舎の移動の負担などに加え、工事期間が2年半程度と長くなってしまいうことから案4を採用することは適切ではない。

### 3. 旧高洲第二中学校校舎補修工事費用

#### 1. 0億円 ※建築部の積算により算出

##### 【工事内容】

- ・床、外壁補修（327万円）
- ・受変電設備、動力設備、照明改修（2800万円）
- ・空調改修（エアコン設置）（2871万円）
- ・給水設備改修（3300万円）
- ・実施設計（330万円）

### 4. グラウンド整備費用

#### 3. 5億円 ※小中学校におけるグラウンド整備の実績をもとに算出

### 5. ICT ネットワーク環境整備費用

#### 1. 3億円 ※業者による積算により算出

##### 【整備内容】

- ・稲毛仮設校舎へのネットワーク移設（1517万円）
- ・BYOD用ネットワーク構築（7744万円）
- ・稲毛新校舎へのネットワーク移設（3651万円）
- ・旧高洲二中仮設校舎ネットワーク構築（260万円）

※この他、魅力的なICT環境整備（電子黒板など）、各種備品購入、本校舎と仮設校舎等の間の引っ越しなどに関する費用が必要



千葉市立稲毛国際中等教育学校移行  
基本計画

令和3年4月

千葉市教育委員会



## はじめに

千葉市立稲毛高等学校は、昭和54年に開校して以来、社会の変化や教育改革に対応して、国際教養科の設置や教育課程の改善、附属中学校の設置など、市民の期待に応える様々な改革を実施してきた。

中高一貫教育校で認められている教育課程の特例を生かし、6年間を見通した柔軟な教育課程の編成、特色ある学校設定科目の設置、総合的な探究の時間における発達段階に応じた課題発見・解決型学習等に取り組んでおり、その結果、知識・技能のみではなく思考力・判断力・表現力や豊かな人間性を備え、様々な分野で活躍する多くの人材を輩出してきている。

「超スマート社会」と呼ばれる Society5.0 時代が訪れようとしている中、稲毛高等学校・附属中学校が中高一貫教育に対する市民ニーズにより一層対応するとともに、中高一貫教育の特性をさらにいかすことができるよう検討を進めてきたところであり、千葉市学校教育審議会における市立高等学校改革に関する提言も踏まえ、稲毛高等学校・附属中学校を中等教育学校へ移行することとした。

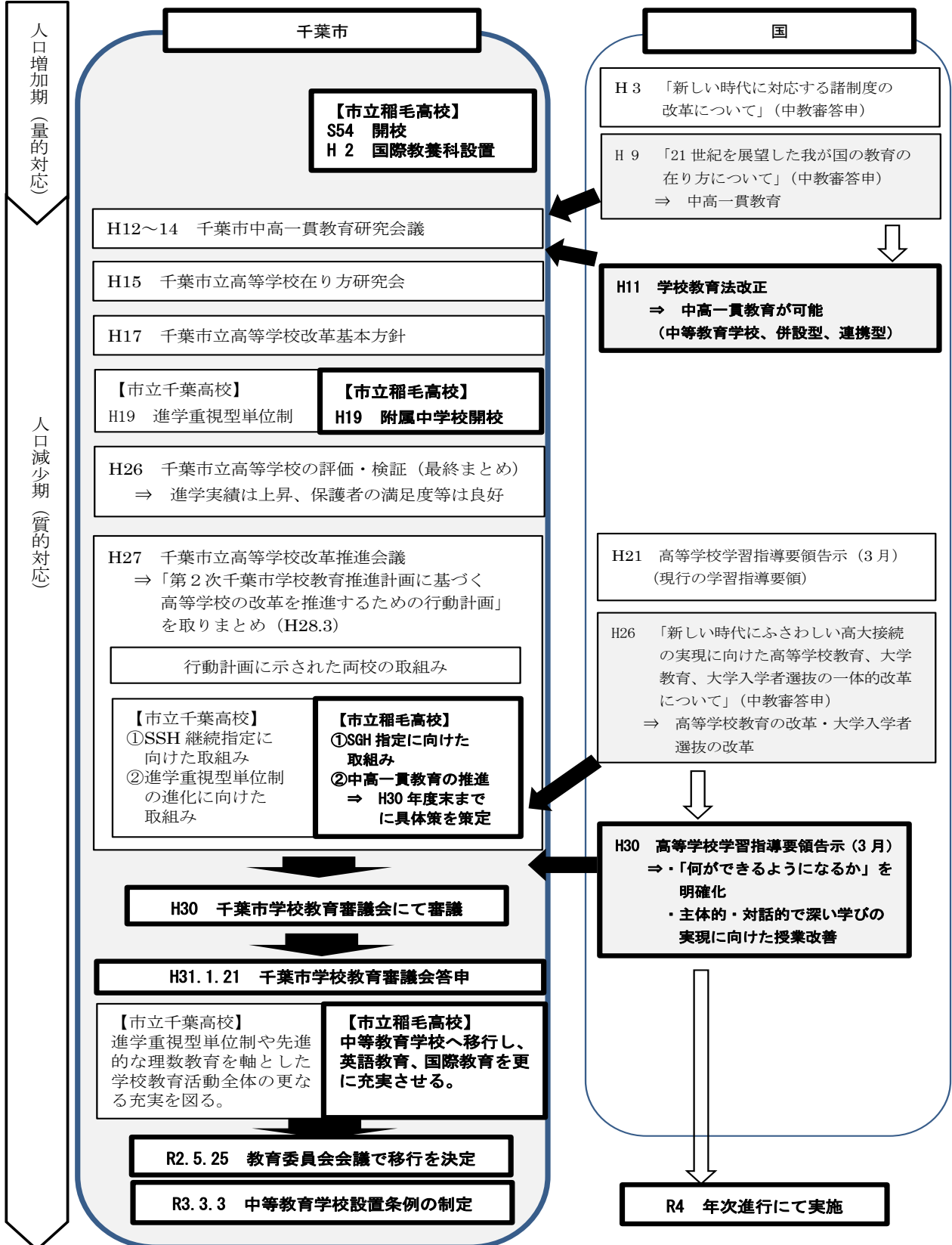
本計画は、中等教育学校の概要、教育方針、大規模改修工事の内容などに関する基本的事項を定めたものである。

## 目次

はじめに	1
1 これまでの市立高等学校改革の取組み	3
2 中等教育学校移行の基本的な枠組み	5
(1) 基本方針	
(2) 中等教育学校の概要	
(3) スケジュール	
3 中等教育学校が目指す教育	7
(1) 学校像	
(2) 育成する生徒像	
(3) 特色ある教育活動	
(4) 教育課程（案）	
(5) その他	
4 入学者選抜の在り方	10
(1) 検査内容	
(2) 選抜方法	
5 大規模改修工事	11
(1) 改修のポイント	
(2) 大規模改修工事後の教室等配置	
(3) 概算費用	
別紙1 大規模改修工事後の校舎等配置	15
別紙2 大規模改修工事スケジュール	16
別紙3 仮設校舎配置図	17

# 1 これまでの市立高等学校改革の取組み

これまでの市立高等学校改革の取組みについて、稲毛高等学校を中心にまとめる  
と以下のとおり。



(参考) 千葉市学校教育審議会答申「市立高校改革の方向性」(平成 31 年 1 月 21 日)

(市立稲毛高等学校・附属中学校関連部分抜粋)

(2) 改革への提言

① 基本的な方向性

中高一貫教育への市民ニーズに対応するとともに、中高一貫教育の特性がさらに生かせるよう、現在の併設型中高一貫教育校から中等教育学校へ移行させる。

その際、後期課程では、現在高等学校に設置している国際教養科を廃止して普通科のみとするが、国際教養科の成果を生かし、これまでの英語教育、国際教育をさらに充実させ、グローバル・リーダーの育成を目指す。

② 具体的な取組み

ア 中等教育学校へ移行させ、中高一貫教育校の教育課程上の特例を十分に活用した教育課程を編成することにより、学習内容を深め、幅広い教養を身に付けた人材を育成する必要がある。

そのため学校では、次のような取組みについて検討する必要がある。

- ・前期課程と後期課程間の指導内容の重複の解消、教科内容の組み換えによる系統的な学習指導内容などのカリキュラム開発 など

また、上記の取組みを推進するため教育委員会においては、次の点について検討する必要がある。

- ・中等教育学校への移行に向けての制度設計
- ・カリキュラム開発への支援
- ・移行期を含めた教職員人事への配慮
- ・施設設備の改修を含む教育環境の整備 など

イ 6年間の学びの連続性を生かし、将来を見据えた探究活動を生徒の発達段階に応じて計画的に実施することにより、グローバル・リーダーとして必要な資質・能力を育成する必要がある。

その中には、質疑応答やディスカッションができる能力、探究活動の成果を千葉市や企業等に提言して実現に向けて行動を起こすことができる力が含まれると考える。

そのため学校では、次のような取組みについて検討する必要がある。

- ・千葉市や大学・企業等と連携し、身近な地域課題からグローバルな社会課題をテーマとした国内及び海外でのフィールドワークや調査研究の実施 など

また、上記の取組みを推進するため教育委員会においては、次の点について検討する必要がある。

- ・「チーム学校」の取組みへの支援 など

ウ グローバル社会や多文化共生社会の一員としての視野を広げることのできる教育環境を整え、英語でディスカッションできる人材を育成する必要がある。

そのため学校では、次のような取組みについて検討する必要がある。

- ・留学生の受入れや外部人材の積極的活用
- ・海外の大学進学へも対応できるカリキュラムの検討 など

また、上記の取組みを推進するため教育委員会においては、次の点について検討する必要がある。

- ・各学年 1 名程度の外国人講師配置
- ・中国語等の英語以外の言語科目の設定や当該言語の外国人講師の配置  
など

## 2 中等教育学校移行の基本的な枠組み

### (1) 基本方針

- 中高一貫教育への市民ニーズに対応するとともに、中高一貫教育の特性がさらに生かせるよう、これまでの伝統、附属中学校のメリット、国際教養科の教育資産を融合し発展させる形で、千葉市立稲毛高等学校・附属中学校を中等教育学校へ移行する。
- 校舎について、劣化が進んでいる箇所が多いため、中等教育学校への移行を機に、大規模改修工事を実施する。

### (2) 中等教育学校の概要

- ① 校名  
千葉市立稲毛国際中等教育学校
- ② 設置場所  
千葉市美浜区高浜3丁目1番1号  
(現在の千葉市立稲毛高等学校・附属中学校の敷地)
- ③ 後期課程における課程及び学科  
全日制の課程  
普通科 ※ただし、単位制とする。
- ④ 定員  
1学年160人(4学級)
- ⑤ 学区  
千葉市内
- ⑥ 開校時期  
令和4年4月

(3) スケジュール

令和4年4月に中等教育学校の1年生が入学し、その後、年次進行で中等教育学校に移行していく。中等教育学校の生徒の入学に合わせて、高等学校の募集定員を2学級減とする。令和7年度には、中等教育学校の生徒が後期課程へ進級することに伴い、高等学校の募集を停止する。令和9年度には、6学年の全てが中等教育学校となる。

学校規模でみる中等教育学校への移行スケジュール

※表中の数字は学級数。

年度		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	中等教育学校	
高等学校	3年	8	8	8	8	8	6	6	6	4	4	6年	後期課程
	2年	8	8	8	8	6	6	6	4	4	4	5年	
	1年	8	8	8	6	6	6	4	4	4	4	4年	
附属中学校	3年	2	2	2	2	2	4	4	4	4	4	3年	前期課程
	2年	2	2	2	2	4	4	4	4	4	4	2年	
	1年	2	2	2	4	4	4	4	4	4	4	1年	
学校規模		30	30	30	30	30	30	28	26	24	24		

4月  
開校

※色がついている部分が中等教育学校の部分

[移行期における学校の存立状況]

期間	中等教育学校	高等学校	附属中学校
令和3年度まで	—	○	○
令和4・5年度	○	○	○
令和6～8年度	○	○	—
令和9年度以降	○	—	—

### 3 中等教育学校が目指す教育

人工知能（AI）やビッグデータ等の先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、今後、社会の変化は加速度を増し、現在の子供が大人になる頃には、社会の在り方そのものが現在とは劇的に変わり、これまで人類が経験したことの無い時代となっていると考えられる。

稲毛国際中等教育学校では、このように複雑で予測不可能な時代の中で、子供たち自身が未来を切り拓くリーダーとなり、幸せで豊かな人生を生きていくために必要な力を育成する。

幅広い教養と国際的視野を身に付け、主体的に物事に取り組み、多面的・多角的に課題解決に向かい、ワールドワイドに情報発信でき、継続的に努力できる人間を育成することを目指す。

#### （1）学校像

地域・世界・未来を切り拓くグローバル・リーダーの育成

#### （2）育成する生徒像

高い志を持ち、幅広い教養を身に付け、未来を切り拓いていく生徒

#### （3）特色ある教育活動

豊かな国際感覚を身に付けたグローバル・リーダーとなるためには、

- 「1 自分たちのことを理解する姿勢」
- 「2 異文化を理解する姿勢」
- 「3 コミュニケーション能力」

を育成することが重要であり、以下のような特色ある教育活動を行っていく。

- ① 地域や世界の視点に立ち様々な課題を探究する課題発見・解決型学習  
～様々な体験の機会が生徒の興味・関心を引き出す～

ア 社会課題・世界的課題を深く考える体系的な探究活動により、千葉市から世界へと視野を広げ、未来を切り拓く力を育成（6年間を通じた体系的な探究活動として「Inage Quest」を創設）

イ 最新の設備を備えたアクティブラーニングルームなど、生徒の主体的・協働的な学びを引き出す様々な設備を活用

ウ 前期課程のみならず後期課程についても、1人1台端末の活用により、これまでの教育実践と最先端のICTをベストミックスさせ、個別最適な学び、協働的な学び、創造性を育む教育を推進

- ② 中高一貫教育の特性を生かした国際教育  
～世界に触れることができる機会の充実～

ア 全ての生徒が海外研修に行くなど世界に直に触れる機会を充実

イ 前期課程からネイティブ教員単独によるオールイングリッシュの授業を展開

- ③ 次世代の社会を支える資質・能力を育成する幅広い教養の育成  
～夢の実現に向けた力の育成～

ア 早期に基礎的学力を着実に育成し、応用力を育む学習に注力できるカリキュラム編成（3年次の国社数理英において発展科目を創設）

イ 後期課程への単位制導入により、各自の興味・関心に応じて学び、文・理に偏らない幅広い教養を習得

ウ 複数の言語から選べる第二外国語の授業を選択可能

#### (4) 教育課程（案）

令和4年度中等教育学校入学生対象教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
前期課程	1年	国語 (140)		社会 (105)		数学 (175)			理科 (140)			保健体育 (105)		音楽 (45)	美術 (45)	英語 (175)			技術家庭 (70)		道徳 (35)	Image Quest (50)		L	H	R						
	2年	国語 (140)		社会 (105)		数学 (175)			理科 (140)			保健体育 (105)		音楽 (35)	美術 (35)	英語 (175)			技術家庭 (70)		道徳 (35)	IQ (70)		L	H	R						
	3年	国語 (105)	発展国語 (35)	社会 (105)		発展社会 (35)	数学 (105)		発展数学 (70)		理科 (105)		発展理科 (35)	保健体育 (105)		音楽 (35)	美術 (35)	英語 (105)		発展英語 (70)		技術家庭 (35)	道徳 (35)	IQ (70)		L	H	R				
後期課程（単位制）	4年	※現代の国語 (2)	※言語文化 (2)	※歴史総合 (2)	※公共 (2)	※数学I (1)	数学A (2)	数学II (2)	※化学基礎 (2)	※体育 (3)	※保健 (1)	※芸術I選択 (2)	※英語コミュニケーションI (1)	論理・表現I (2)	英語コミュニケーションII (2)	※家庭基礎 (2)	※情報I (2)	I	Q	L	H	R										
	5年	論理国語 (4)		※地理総合 (2)	政治・経済 (2)	数学II (2)	数学B or 日常英語 (2)	※生物基礎 (2)	※物理基礎 or 地学基礎 (2)	※体育 (3)	※保健 (1)	芸術II or 第二外国語 (2)	英語コミュニケーションII (2)	論理・表現II (2)	世界史探究 or 日本史探究 or 化学 (4)		L	H	R													
	6年 文系	※体育 (2)	英語コミュニケーションIII (4)		論理・表現III (2)	選択α (文学国語(4)+古典探究(4)+(化学/生物/地学)(4)から1科目)						選択β 4単位(国語表現・地理探究・世界史探究・日本史探究) 2単位(倫理・政治経済特講・数学研究A・数学研究B・化学特講・芸術III・英語研究・第二外国語)(10)					I	Q	L	H	R											
	6年 理系	選択α (数学III(5)+数学C(2)+(物理/生物)(5)から1科目)																L	H	R												

後期課程において「※」が付されているものは、法令上の必修科目



#### (5) その他

校歌、校章、校旗、制服については、これまでの伝統を継承しつつ、新しい中等教育学校にふさわしいものとするため、以下のとおりとする。

① 校歌

現在の校歌を採用する。

② 校章

現在の校章のデザインをもとに、「稲国」の文字を入れたものとする。

③ 校旗

新しい校章を付した校旗とする。

④ 制服

現在の中学校又は高等学校の制服を採用し、ネクタイを着用し、スラックス又はスカートの着用は選択制とする。

## 4 入学者選抜の在り方

稲毛国際中等教育学校が目指す「学校像」や「育成する生徒像」を踏まえて、志願者の能力、適性、意欲等を総合的に判定できるような検査を実施する。

### (1) 検査内容

#### 【一次検査】

適性検査Ⅰ 45分	文章や図・表・データの内容を的確に読み取り、分析したり、文章で表現したりする力をみる。
適性検査Ⅱ 45分	自然科学的、数理的な問題を分析し考察する力や、解決に向けて思考・判断し、的確に表現する力をみる。

#### 【二次検査】

適性検査Ⅲ 45分	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学校の外国語活動や外国語科の授業で学習した内容を基に、思考・判断する力をみる。</li><li>・自分の思いや考えが明確になるように、文章の構成や展開を考え、筋道の通った日本語の文章を書く力をみる。</li></ul>
面接	将来の進路に対する目的意識、学ぼうとする意欲、聞く力・話す力等をみる。

### (2) 選抜方法

- ① 一次検査の結果を資料とし、二次検査受検候補者を選抜する。なお、二次検査受検候補者は募集定員の2倍程度とする。
- ② 小学校等の校長の作成した報告書、志願者から提出された志願理由書等の書類の審査並びに一次検査及び二次検査の結果を資料とし、志願者の能力、適性、意欲等を総合的に判定して入学者の選抜を行う。

## 5 大規模改修工事

千葉市立稲毛高等学校及び附属中学校の校舎は、昭和54年の竣工から現在まで42年が経過しており、竣工後、建築・電気・機械ともに必要に応じて修繕などが行われてきたが、劣化が進んでいる箇所が多く、また、既に更新時期を超えている部位も多々見られ、今後も劣化が進んでいくものと考えられることから、大規模改修工事を実施する。

大規模改修工事の予算には限りがあるが、今後新しい中等教育学校として長期間使用していくことを踏まえ、それにふさわしい校舎となるよう全面的に改修を行うこととする。なお、工事期間中、在籍生徒にできる限り不利益や悪影響がないよう最大限留意する。

### (1) 改修のポイント

生徒が学びやすく、教職員が働きやすい教室配置にする

- ① 校舎改修  
床、壁、天井、外壁、機械・電気等の設備の改修
- ② バリアフリー化  
段差の解消、エレベーターの設置
- ③ 少人数対応教室の整備  
空教室を半分に仕切るなど単位制実施に伴う選択科目増加や少人数授業を可能とする教室の設置（生徒が自習等に活用できるスペースとしても活用）
- ④ アクティブラーニングルームの整備  
学習の内容に応じて集団での学習やグループ学習が可能となるような広さを変えられる多目的教室の設置
- ⑤ 前期課程の給食施設の整備  
給食棟での合同給食に代え、各教室での給食を実施するための設備の整備
- ⑥ グラウンド整備  
仮設校舎の撤去後のグラウンドについて全体的な整備

⑦ 魅力的なICT環境整備

すべての生徒が1人1台の端末を持ち、それらを常時同時に使用して質の高い学習を行うことができるよう、大容量のネットワーク環境の整備や教室への電子黒板等のICT機器の設置

(2) 大規模改修工事後の教室等配置

主な新規整備箇所は以下のとおり。※詳細は別紙1参照

① バリアフリー化

ア 車椅子利用可能な通路整備

- 1階 普通教室棟～工芸棟
- 普通教室棟～特別教室棟（2か所）
- 特別教室棟

イ スロープ設置

- 2階 普通教室棟～体育館
- 特別教室棟～体育館
- 第2特別教室棟～体育館

ウ エレベーター設置

- 普通教室棟及び特別教室棟

② 少人数対応教室の整備

- 1階 2室
- 2階 1室
- 3階 3室
- 4階 4室

③ アクティブラーニングルームの整備

- 4階 特別教室棟

④ 前期課程の給食施設の整備

- 1階 給食受取口兼一時保管場所設置
- 2階～3階 給食保管場所設置

### (3) 大規模改修工事のスケジュール

大規模改修工事に関する主なスケジュールは以下のとおり。※詳細は別紙2参照

令和3年度	耐力度調査実施
令和4年度	千葉市立稲毛高等学校・附属中学校の中等教育学校への移行に伴う校舎改修実施設計策定
令和5～6年度	校舎等大規模改修工事実施
令和7～8年度	グラウンド等外構工事実施

### (4) 工事期間中の教育活動

#### ① 中学校段階の生徒

大規模改修工事中は、グラウンドをはじめ教育活動で利用できる場所が限られることになることから、近接する旧千葉市立高洲第二中学校の校舎やグラウンドが活用できることから、よりよい教育環境を実現するため、中学校段階の生徒については、旧高洲第二中学校跡地に移動し教育活動を行う。

旧高洲第二中学校の校舎では、現在は使用していない普通教室も使用することとなるが、それらの教室は空調設備がなく、床がはがれており危険な状態であることから、空調設備の設置、劣化が進んでいる床や外壁の補修、給水設備に関する対応（具体的な内容はその時点での給水設備の状況を見て判断する）を行うとともに、少人数教室用の仮設校舎を建設する。

なお、高等学校段階の生徒について旧高洲第二中学校跡地に移動し教育活動を行うことについては、必要な教室数が確保できない（20学級分必要であるが、旧高洲第二中学校は12学級対応校舎である）ことから不可能である。

#### ② 高等学校段階の生徒

現在の敷地内に仮設校舎を建設し、高等学校の教室等を移設し、教育活動を行う。

改修工事中の騒音や振動により、生徒の教育環境が悪化することがないように、改修工事は居ぬき工事で実施することとし、生徒は仮設校舎において全ての教育活動を行う。

#### ③ グラウンド及び体育館等について

中学校段階の生徒が旧高洲第二中学校跡地を活用したとしてもなお、大規模改修工事中は、体育の授業や部活動で使用するためのグラウンドや体育館等が

不足することが想定される。教育活動にできる限り支障がでないよう、近隣の学校やスポーツ施設を代替施設として確保する。

④ 生徒間交流について

工事期間中、中学校段階の生徒と高等学校段階の生徒の教育活動場所が離れてしまうことから、生徒間交流の機会の減少が懸念される。これについては、体育祭や文化祭などの学校行事や休日の部活動など可能な場面で積極的に生徒間交流を進めることとする。

※仮設校舎の詳細は別紙 3 参照

## (5) 概算費用

以上の内容について、概算費用を算出すると以下のとおり。

39.6 億円

(内訳)

① 校舎等改修工事	23.6 億円
② 仮設校舎建設	10.2 億円
③ 旧高洲第二中学校校舎補修工事	1.0 億円
④ グラウンド整備	3.5 億円
⑤ ICTネットワーク環境整備	1.3 億円

※この他、魅力的な ICT 環境整備（電子黒板など）、各種備品購入、本校舎と仮設校舎等の間の引っ越しなどに関する費用が必要

なお、仮設校舎や旧高洲第二中学校校舎について、1 年間のみの使用であることを踏まえれば、可能な限り費用を削減することも必要であることから、将来のために現在の生徒が犠牲になることがあってはならないという前提の上、今後の実施設計や仮設校舎設計などの具体的な検討を進める中で、よりよい形で費用を削減できることが判明した場合には、積極的に改善に努めることとする。



大規模改修工事スケジュール

別紙 2

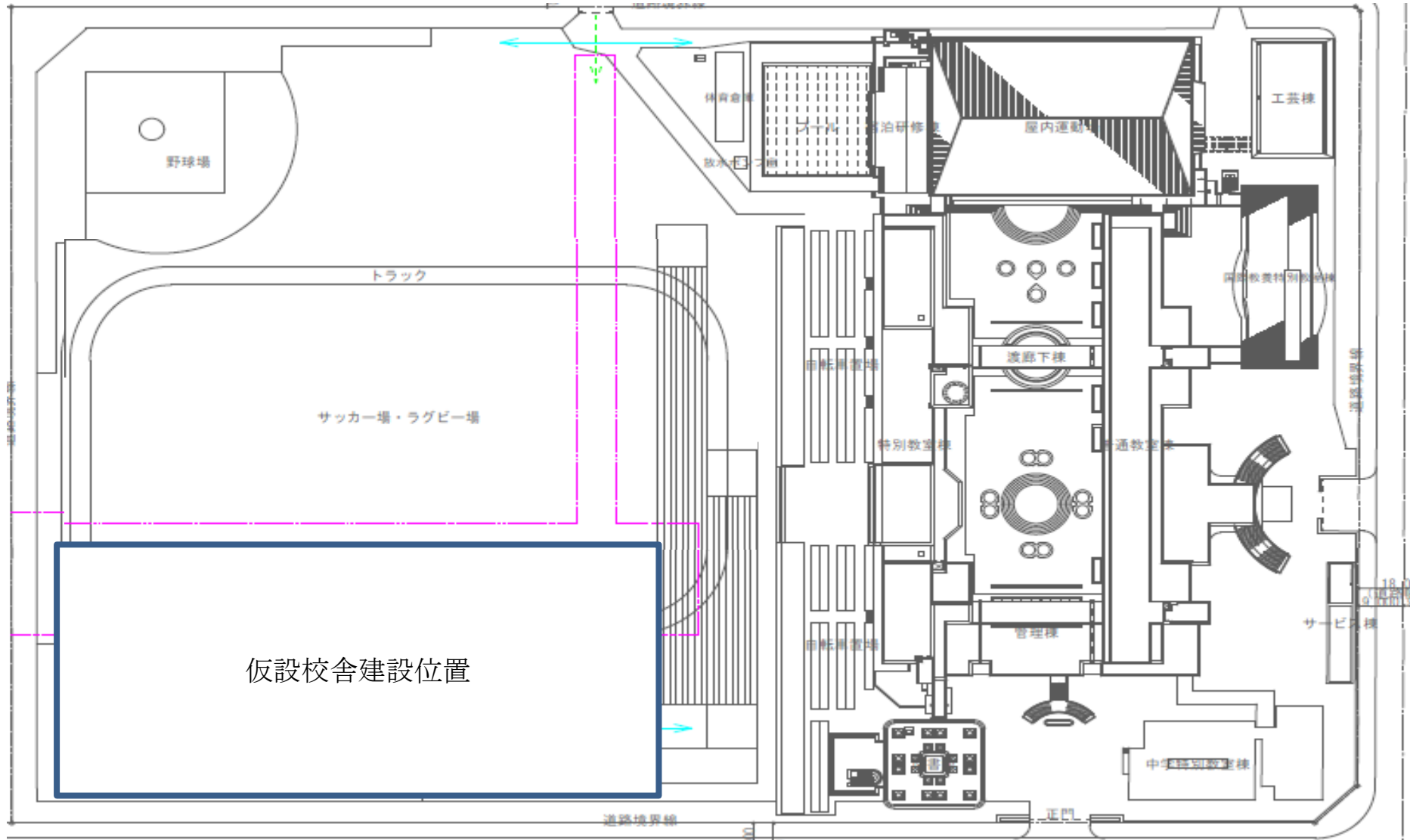
16

区 分	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度	令 和 5 年 度	令 和 6 年 度	令 和 7 年 度	令 和 8 年 度	
市立稲毛高校		★中等教育学校 開校					
市立稲毛高校耐力度調査							
国庫補助金		○国庫補助金申請（5月）→ 実施設計費用、仮設校舎費用（大規模改修工事期間に限る）、大規模改修費用について補助					
市立稲毛高校改修実施設計							
仮設校舎リース			 <small>設計 (4か月) 工事 (6か月) 休 仮設校舎として利用(12か月) 休 解体撤去 (2か月)</small> <small>み○仮設校舎移転</small>				
旧高洲第二中学校校舎改修工事							
大規模改修 議決			◎3定				
大規模改修 工事							
グラウンド 測量・設計							
グラウンド 改修							
市立稲毛高校のグラウンド使用			大部分使用不可（体育、部活動は代替施設で行う）				
市立稲毛高校の体育館使用				使用不可 (同上)			
授業の場所	← 稲毛校舎		← 中学生：旧高洲二中学校舎 ← 高校生：稲毛の仮設校舎		← 新校舎 →		
平成29年度附属中学入学生 令和2年度高校入学生	高校2年生	高校3年生					
平成30年度附属中学入学生 令和3年度高校入学生	高校1年生	高校2年生	高校3年生				
平成31年度附属中学入学生 令和4年度高校入学生	中学3年生	高校1年生	高校2年生	高校3年生			
令和2年度附属中学入学生 令和5年度高校入学生	中学2年生	中学3年生	高校1年生	高校2年生	高校3年生		
令和3年度附属中学入学生 令和6年度高校入学生	中学1年生	中学2年生	中学3年生	高校1年生	高校2年生	高校3年生	
令和4年度中等教育学校入学生		中等教育学校1年生	中等教育学校2年生	中等教育学校3年生	中等教育学校4年生	中等教育学校5年生	
令和5年度中等教育学校入学生			中等教育学校1年生	中等教育学校2年生	中等教育学校3年生	中等教育学校4年生	
令和6年度中等教育学校入学生				中等教育学校1年生	中等教育学校2年生	中等教育学校3年生	
令和7年度中等教育学校入学生					中等教育学校1年生	中等教育学校2年生	
令和8年度中等教育学校入学生						中等教育学校1年生	



# 仮設校舎配置図

別紙3



稻毛高等学校

旧高洲第二中学校

管理特別教室棟



普通特別教室棟



普通教室棟



2階平面図

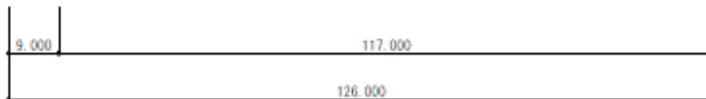
管理特別教室棟



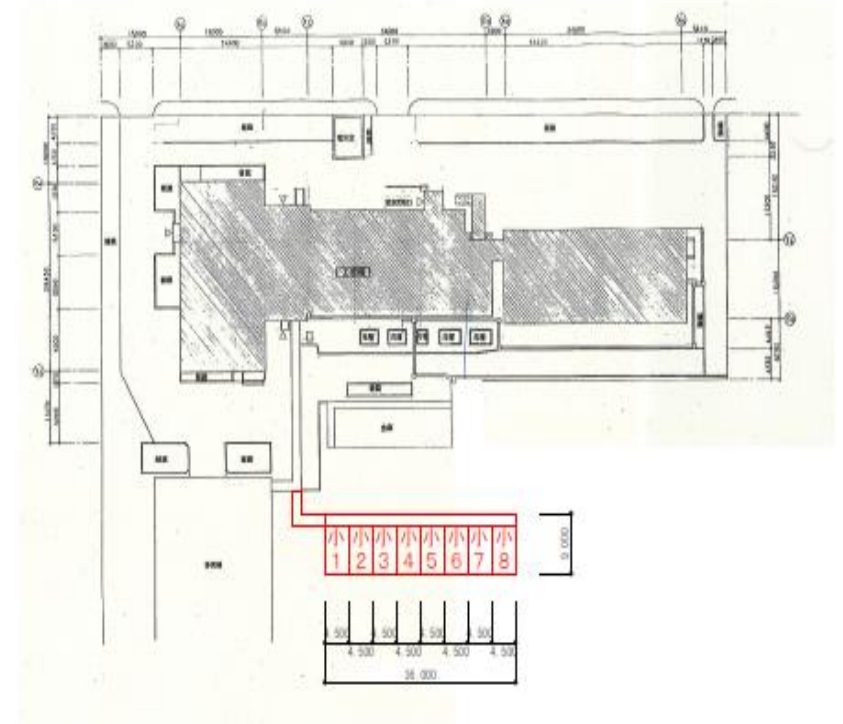
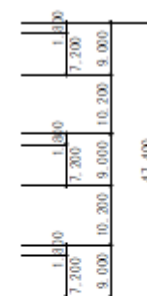
普通特別教室棟



普通教室棟

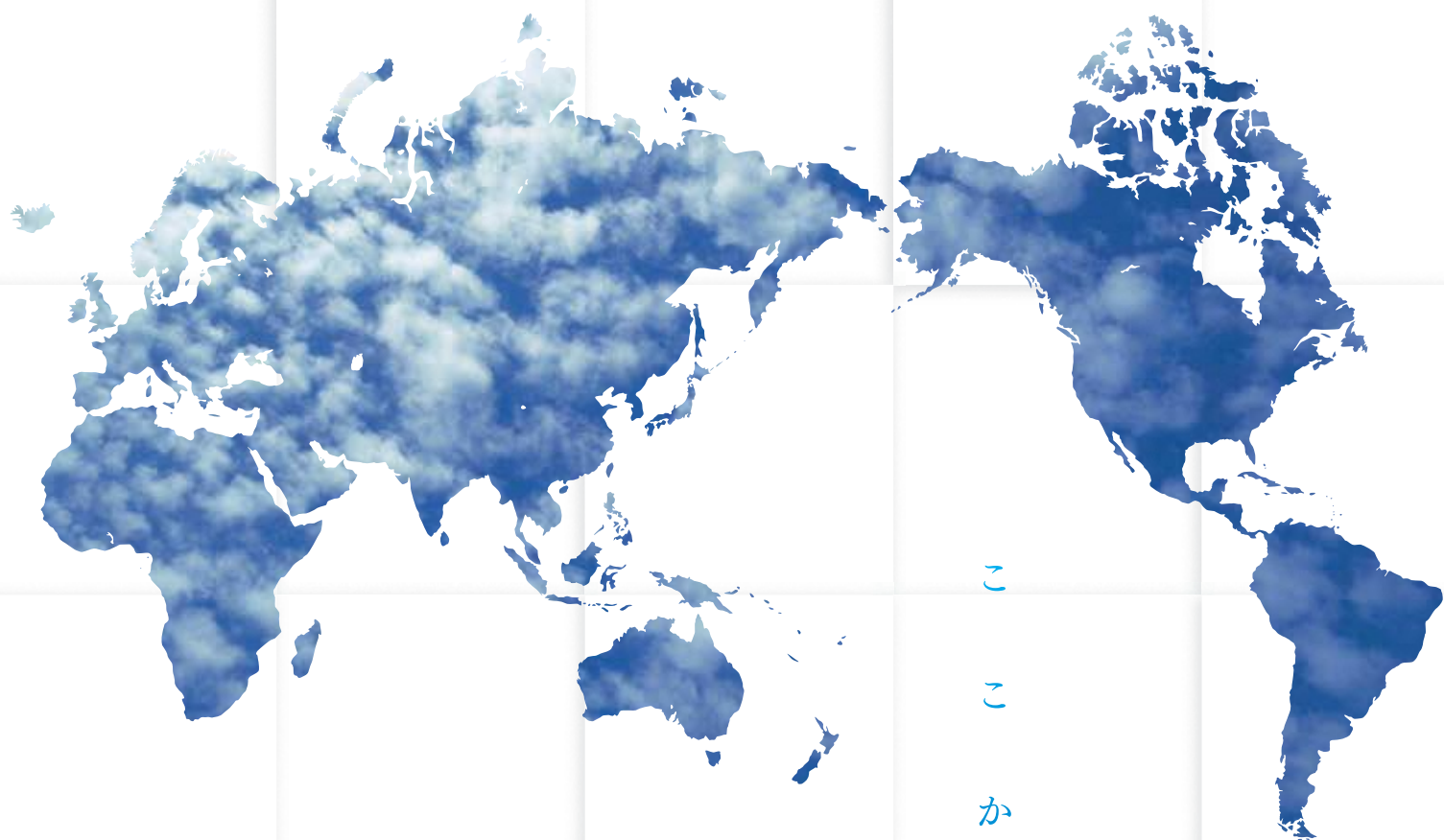


1階平面図



普：普通教室  
小：少人数教室

# 千葉県で初めての 公立の中等教育学校 が創設されます



こ  
こ  
か  
ら  
世  
界  
へ  
。



千葉市教育委員会

れいわ ねんど いなげこうとうがっこう ふぞくちゅうがっこう  
 令和4年度から、稲毛高等学校・附属中学校が



## 中等教育学校への移行スケジュール

※表中の数字は学級数

年 度	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	中等教育学校		
高等学校	3年	8	8	8	6	6	6	4	4	6年	後期課程
	2年	8	8	6	6	6	4	4	4	5年	
	1年	8	6	6	6	4	4	4	4	4年	
附属中学校	3年	2	2	2	4	4	4	4	4	3年	前期課程
	2年	2	2	4	4	4	4	4	4	2年	
	1年	2	4	4	4	4	4	4	4	1年	
学校規模	30	30	30	30	28	26	24	24			



令和4年4月に中等教育学校の前期課程の1年生が入学し、その後、年次進行で中等教育学校に移行します。令和9年度には、6学年の全てが中等教育学校となる予定です。色がついている部分が中等教育学校の部分となります。



ちばけん はじ こうりつ ちゅうとうきょういくながっこう  
千葉県で初めての公立の中等教育学校となります。



## 目次

CONTENTS

- 2 ■ 移行スケジュール
- 4・5 ■ 中等教育学校が目指す教育 ● 学校像 ● 育成する生徒像
- 6・7 ■ 特色ある教育活動
- 8 ■ 教育長 挨拶
- 9 ■ 学校長 挨拶
- 10 ■ 探究活動とは
- 11 ■ Q&A
- 12 ■ 案内情報

# 新設される中等教育学校が目指す教育



## がっこうぞう 【学校像】

### ちいき せかい みらい き ひら 地域・世界・未来を切り拓く グローバル・リーダーの育成

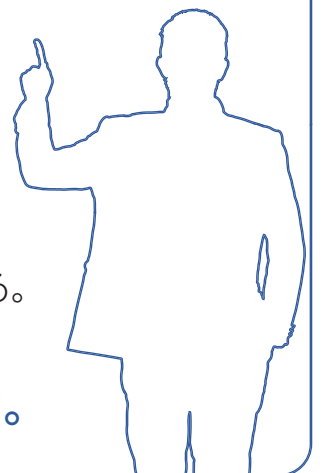
いま、世界では、人工知能（AI）やビッグデータ等の先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあります。今後、社会の変化は加速度を増し、現在の子供たちが大人になる頃には、社会の在り方そのものが現在とは劇的に変わり、これまで人類が経験したことの無い時代となっているでしょう。こうした時代には、次のような人材が求められるとされます。

◆ どのような未来を創っていくか、どのように社会や人生をより良いものとしていくかを主体的に考えることができる。

◆ 自らの行動を考え、責任を持って遂行できる。

◆ 想定外の事態に向き合い、他者と協働し調整することができる。

といった人材が求められています。





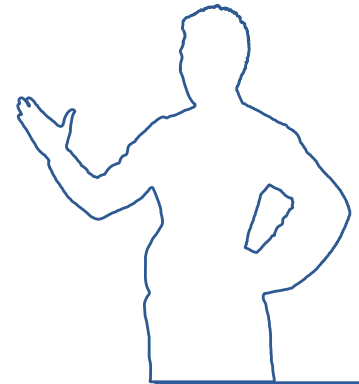
いくせい せいとぞう  
【育成する生徒像】

たか ころざし も はばひろ きょうよう み  
**高い志を持ち、幅広い教養を身に**  
つ みらい き ひら せいと  
**付け、未来を切り拓いていく生徒**

あたら ちゅうとうきょういくがっこう  
**新しい中等教育学校では**

このように複雑で予測不可能な時代の中で、子供たち  
自身が未来を切り拓くリーダーとなり、幸せで豊かな人生  
を生きていくために必要な力を育成します。

幅広い教養と国際的視野  
を身に付け、主体的に  
物事に取り組み、多面的・  
多角的に課題解決に向か  
い、ワールドワイドに  
情報発信でき、継続的に  
努力できる人間を育成する  
ことを目指します。





# とくしよく きょういくかつどう 特色ある教育活動

ゆた ことくさいかんかく み つ  
豊かな国際感覚を身に付けたグローバル・リーダー

1. 自分たちのことを理解する姿勢  
じぶん りかい しせい
2. 異文化を理解する姿勢  
いぶんか りかい しせい
3. コミュニケーション能力の育成  
のうりよく いくせい

## 1. さまざまな体験の機会が生徒の興味・関心を引き出します！！

ちいき せかい してん た さまざま かだい たんきゅう かだい はっけん かいけつがたがくしゅう  
地域や世界の視点に立ち様々な課題を探究する課題発見・解決型学習

しゃいかい かだい せかいてき かだい ふか かんが たいけいてき  
社会課題・世界的課題を深く考える体系的な  
たんきゅうかつどう ちばし せかい しや  
探究活動により、千葉市から世界へと視野を  
ひろ みるい き ひら ちから いくせい  
広げ、未来を切り拓く力を育成



ちばしちょう ようす  
千葉市長とのタウンミーティングの様子

さいしん せつび そな  
最新の設備を備えたアクティブラーニング  
ルームなど、生徒の主体的・協働的な学びを  
ひ だ さまざま せつび かつよう  
引き出す様々な設備を活用



そうごうてき たんきゅう じかん せいと  
総合的な探究の時間における生徒による  
プレゼンテーション



## 2. 世界に触れることができる機会を充実させます！！

ちゅうこういっかんきょういく とくせい い こくさいきょういく  
 中高一貫教育の特性を生かした国際教育

すべ せいと かいがいけんしゅう  
 全ての生徒が海外研修に  
 行くなど世界に直に触れる  
 きかい じゅうじつ  
 機会を充実



ごがくけんしゅう ようす  
 オーストラリア語学研修の様子

ぜんきかてい  
 前期課程からネイティブ  
 きょういんたんどく  
 教員単独によるオールイング  
 リッシュの授業を展開



ネイティブ教員による  
 えいごじゅぎょう ようす  
 英語授業の様子

ひとりいちだい かつよう  
 1人1台パソコンを活用し  
 こくさいきょういく  
 た国際教育



えいご じゅぎょう  
 英語の授業でパソコンを  
 かつよう ようす  
 活用している様子

## 3. 夢の実現に向けた力を身に付けさせます！！

じせだい しゃかい ささ ししつ のうりよく いくせい はばひろ きょうよう いくせい  
 次世代の社会を支える資質・能力を育成する幅広い教養の育成

そうき きそてきがくりよく ちゃくじつ  
 早期に基礎的学力を着実に  
 いくせい おうりよく はぐく がくしゅう  
 育成し、応用力を育む学習  
 ちゅうりよく  
 に注力できるカリキュラム  
 へんせい  
 編成



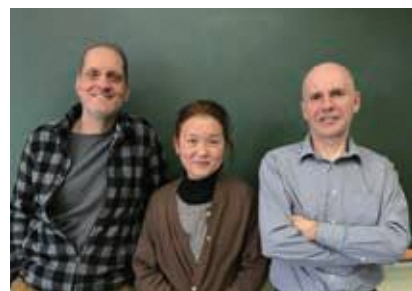
きそ おうりよく けいかく  
 基礎から応用まで計画された  
 カリキュラムにより確かな学力を  
 たし がくりよく  
 身に付ける

こうきかてい たんいせいどうにゆう  
 後期課程への単位制導入に  
 より、各自の興味・関心  
 かくじ きょうみ かんしん  
 に応じて学び、文・理に偏ら  
 おう まな ぶん り かつたよ  
 ない幅広い教養を習得



かつどう せいと  
 グループ活動をととした生徒の  
 しゅたいてき とく  
 主体的な取り組み

ふくすう げんご えら  
 複数の言語から選べる  
 だいにがいこくご じゅぎょう  
 第二外国語の授業を  
 せんたくかのう  
 選択可能



けいけんゆた だいにがいこくご しゃしんひだり  
 経験豊かな第二外国語(写真左から  
 こ ちゅうごくご こ  
 ドイツ語・中国語・フランス語)  
 せんもんまういん  
 の専門教員



# あら しゃかい まな 新たな社会への学び

ちばしきょういっくいんかいきょういっくちょう  
千葉市教育委員会教育長

いその かずよし  
磯野 和美

れいわ ねん がつ ちばしりついなげこうとうがっこう ふぞくちゅうがっこう ちばけんない こうりつがっこう はじ  
令和4年4月、千葉市立稲毛高等学校と附属中学校は千葉県内の公立学校として初めて  
ちゅうとうきょういっくがっこう ちゅうとうきょういっくがっこう がっこうぞう ちいき せかい みらい き ひら  
となる中等教育学校となります。中等教育学校の学校像を「地域・世界・未来を切り拓く  
グローバル・リーダーの育成」、育成する生徒像を「高い志を持ち、幅広い教養を身に付  
け、未来を切り拓いていく生徒」とし、特色ある教育活動を展開してまいります。

ちゅうとうきょういっくがっこう ちゅうがっこう そうとう ねんかん ぜんきかてい およ こうとうがっこう そうとう  
中等教育学校は、中学校に相当する3年間の「前期課程」及び高等学校に相当する3  
ねんかん こうきかてい けい ねんかん ちゅうこういっかんきょういっく がっこう いったいてき おこな がっこう  
年間の「後期課程」の計6年間の中高一貫教育を、一つの学校として一体的に行う学校で  
す。6年間をとおした学びで、中高一貫教育の特性を生かした国際教育の実施、地域や  
せかい してん た さまざま かだい たんきゅう かだいほっけん かいけつがたがくしゅう じっし じせだい しゃかい ささ  
世界の視点に立ち様々な課題を探究する課題発見・解決型学習の実施、次世代の社会を支  
える資質・能力を育成する幅広い教養を培うことを目指します。

こんご ちょう しゃかい い そさえてい おとず  
今後、「超スマート社会」と言われる「Society 5.0」が訪れようとしております。こ  
の「Society 5.0」は、先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられ、  
せいかつ げきてき べんり かいてき しゃかい えーあいぎじゅつ はってん ていけいてきろうどう  
生活は劇的に便利で快適なものになる社会ですが、AI技術の発展により、定型的労働な  
げんざいにんげん おこな しごと おお えーあい だいたい い  
ど現在人間が行っている仕事の多くがAIやロボットに代替されるとも言われています。  
このような社会では、答えのない問いに対し、主体的に考え、多様な立場の者と協働的に  
ちようせい かいけつさく う だ えーあい にんげん つよ  
調整し、解決策を生み出していくなど、AIにはできない人間ならではの強みをいかして  
いくことが求められます。この度創設する中等教育学校では、このような社会で求められ  
ちから はくく さまざま ぶんや かつやく あら しゃかい けんいん じんざい いくせい  
る力を育み、様々な分野で活躍する新たな社会を牽引する人材を育成します。

ちば しりついなげ こうとうがっこうおよ ふぞくちゅうがっこう つちか しゃん けいしりょう  
これまでの千葉市立稲毛高等学校及び附属中学校で培った資産をしっかりと継承すると  
きょうしよくいん せい とおよ そつぎょうせい おも う さら はってん しみん みなさま きたい  
もに、教職員や生徒及び卒業生の想いを受けとめ、更に発展させ、市民の皆様のご期待に  
そ ちゅうとうきょういっくがっこう とくしよく がっこう すす  
添うことができるよう、中等教育学校ならではの特色ある学校づくりを進めてまいります。  
しょうがくせいおよ ほごしゃ みなさま ちゅうとうきょういっくがっこうだい きせい まな  
小学生及び保護者の皆様、中等教育学校第1期生として学んでみませんか。





# 継承と発展

ちばしりついなげこうとうがっこう ふぞくちゅうがっこう こうちょう  
千葉市立稲毛高等学校・附属中学校 校長

さとう けいじ  
佐藤 啓之

この度本校は、千葉県で初めての公立中等教育学校になります。これまでの本校の教育活動等を受け継ぎながら更に発展させるとともに、中等教育学校として新たな特色のある学校づくりに取り組みます。

本校はこれまで、地域の皆様に支えられ教育活動を行い、数々の大きな成果を上げてまいりました。生徒は、授業のみならず、学校行事、部活動に精一杯取り組んでおり、教職員とともに、学校全体を盛り上げています。文部科学省「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール (SELHi)」、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業 (グローバル型)」に指定され、その研究の成果を生かし授業を行っています。

前期課程では、これまでの附属中学校の教育課程、例えば、ネイティブ講師による英語の授業や少人数授業等を発展させるとともに、高等学校の学習内容を一部前倒して学習します。給食もあります。

後期課程は、全日制の課程・普通科で、単位制とします。高等学校の教育内容を行うとともに、国際教養科での取り組み、例えば、先進的な英語教育や国際教育、海外研修、英語によるディベートやディスカッション等の授業を生徒全員を対象に行う予定です。また、学習指導はもとより、きめ細やかな進路指導を行い、生徒一人一人の卒業後の進路希望の実現を目指します。多様な選択科目を設置するなど、学ぶ意欲をより一層大切にします。

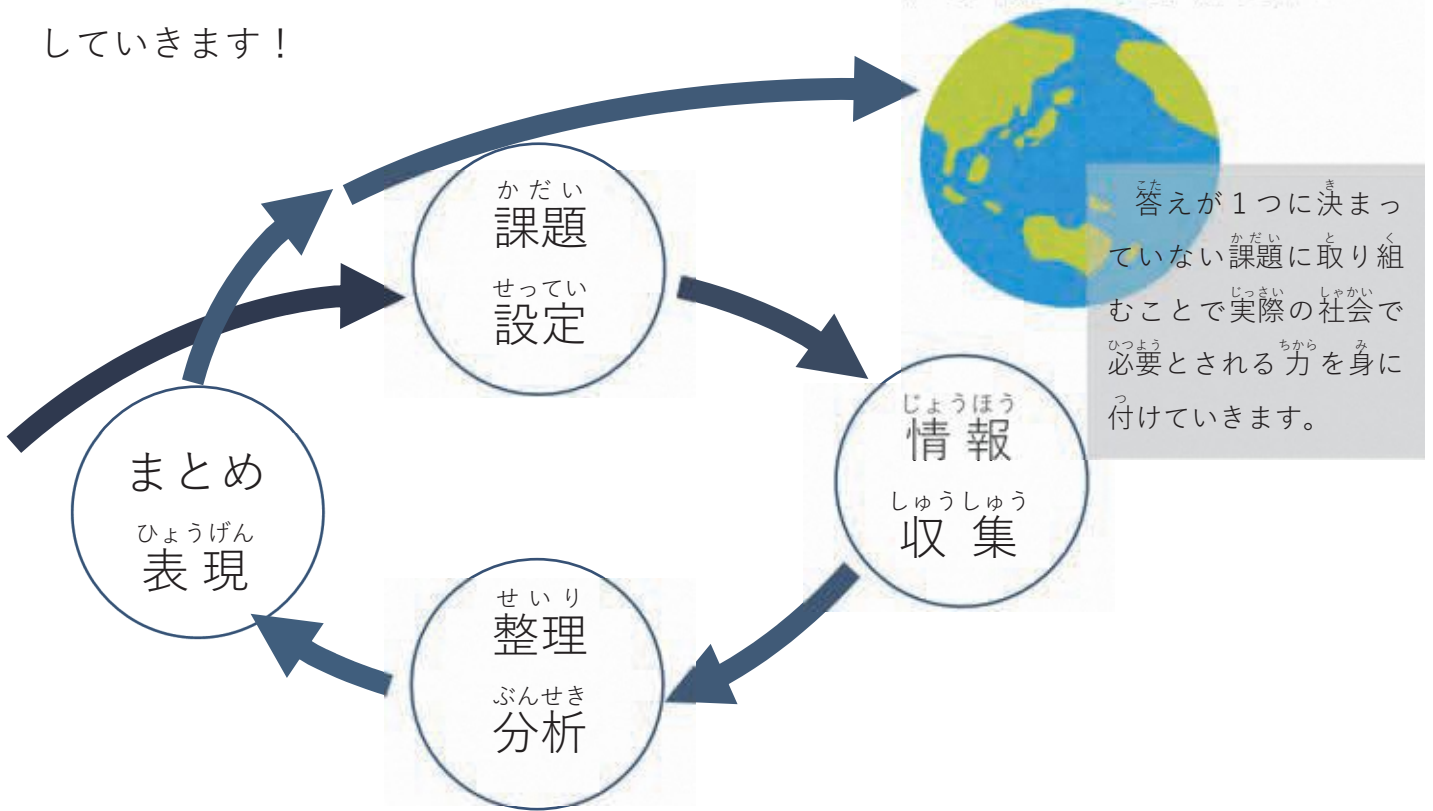
中等教育学校開校後数年間は、中等教育学校・高等学校・附属中学校の3校が併存する学校となります。

今後も地域や保護者の皆様に信頼され、愛される学校づくりをしてまいります。新たな伝統を創るのは皆さんです。中等教育学校で先輩や仲間とともに学びましょう。

# たんきゅうかつどう 探究活動とは

せいとみずか かだい せってい  
生徒自らが課題を設定し、インタビューやアンケート、現地調査、文献調査  
などの調査活動を行い、それらを整理して考察し、発表する活動です。

ねんかん はったつだんかい おう さまざま かつどう おこな しこうりょく ひょうげんりょく の  
6年間かけて発達段階に応じた様々な活動を行い、思考力・表現力を伸ば  
していきます！



▼ げんざい いなげ こうとう がっ こう ふ ぞくちゅうがっこう と く じ れい しょう かい  
現在稲毛高等学校・附属中学校で取り組んでいる事例を紹介します。

あたらし ちゅうとうぎょういっくがっ こう と く けいけん い よ  
新しい中等教育学校でも、これまでの取り組みの経験を活かして、より良い  
たんきゅうかつどう けい かく  
探究活動ができるように計画をしています。

- |       |    |                  |
|-------|----|------------------|
| こうこう  | ねん | かいがいごがくけんしゅう     |
| 高校    | 2年 | 海外語学研修           |
|       | ねん | ちばしそうせい          |
|       | 1年 | 千葉市創生プロジェクト/英語合宿 |
| ちゅうがく | ねん | とうきょう            |
| 中学    | 3年 | 東京ABCプロジェクト      |
|       | ねん | なりた              |
|       | 2年 | 成田プロジェクト         |
|       | ねん | い ちばん            |
|       | 1年 | iちばnプロジェクト/言語技術  |





Q： 中等教育学校になると何が**変わる**のですか？

A： 中等教育学校は、中学校と高等学校の6年間の教育を1つの学校として**一体的**に行う学校です。6年間を一貫して教育することにより、効果的な教育カリキュラムを編成できること、6年間をとおして生徒の状態を把握し指導できること、6年の異学年での交流ができること、高校受験に追われずゆとりをもって学ぶことができること、などのメリットがあります。

稲毛高等学校・附属中学校では、これまでも中高一貫による質の高い教育を実施してきましたが、中等教育学校になることによりそのメリットが**最大化**されます。

特に教育課程の面では、早期に基礎的学力を**着実に**育成し応用力を育む学習に注力できるカリキュラムを編成するなどこれまで以上に**充実**したものになります。

また、開校にあわせて校舎の大規模改修工事を行うこととしており、工事完了後はより良い教育環境で学ぶことが**可能**となります。

Q： 大規模改修工事の**スケジュール**はどのようになっていますか？

A： 令和4年度に中等教育学校が開校した後、令和8年度までの間に校舎の大規模改修工事を行う**予定**にしています。

工事期間中は、仮設校舎や現校舎とは離れた代替の施設において教育活動を行うことになる場合がありますので**ご了承ください**。

Q： **海外研修**があるのですか？

A： 原則全ての生徒が海外研修に行くこととなります。



# 千葉市立中等教育学校について

## ■千葉市立中等教育学校の応募資格

令和4年3月小学校卒業見込みであること。  
千葉市在住であること。

## ■募集人数

160名

※中等教育学校では、高校段階(後期課程)からの生徒募集はありません。

## 保護者説明会については、教育改革推進課の ホームページでお知らせします。

(<https://www.city.chiba.jp/kyoiku/gakkokyoiku/kyoikukaikaku/documents/r2-1tyuutoukyouikugakkougakkousetumeikai.pdf>)



上のQRコードから  
も閲覧できます

### 学校の所在地

千葉市立稲毛高等学校・附属中学校  
〒261-0003 千葉市美浜区高浜3-1-1  
【附属中学校 TEL: 043-270-2055】  
【高等学校 TEL: 043-277-4400】



## 入学者募集に関するお問い合わせ TEL: 043-245-5914

千葉市教育委員会学校教育課教育改革推進課  
〒260-8730 千葉市中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー11階

\*本パンフレットの内容は、令和2年12月時点での案であるため、今後変更があり得ます。